椿原町視察報告

1. 地域資源を活用し人口減少に立ち向かう

1.1 背景

10年ほど前から椿原町では人口減少とその影響に立ち向かうための取り組みが始められました。これは、国内外で見られる人口減少と都市集中を逆行する現象として、地域固有の資源と特性を活用することで地域社会を活性化する試みとして位置づけられます。

1.2 空き家問題への取り組み

空き家活用促進事業: 町が空き家を借り上げ、移住者へ提供することで、新たな居住者が増え、地域が活性化しています。現在53棟の家が改修され、新たに居住者が見つかっています。家賃は月2万円と設定されており、お試し滞在も可能です。
移住者と地域とのつながり: 町は移住者と地域社会との間に良好な関係を築くための取り組みも行っています。これにより、移住者が地域社会にスムーズに溶け込めるよう助けています。

1.3 地域資源の活用

椿原町はその豊かな自然環境と地域の資源を活用する取り組みを進めています。

森林セラピーロード: 森林の中に整備された散策路を通じて、来訪者や地域住民が自然を満喫できるようにしています。
ゆすはら座: 町内にある歴史的な劇場を保存し、地域の文化と芸術を支援しています。この劇場は、隈研吾氏との交流のきっかけともなっています。
環境モデル都市: 椿原町は環境に配慮したモデル都市としても知られており、風力発電の導入など、持続可能なエネルギー源の開発に取り組んでいます。

1.4 成果と課題

これまでの取り組みで得られた成果と、まだ解決すべき課題を考察します。空き家の利用拡大や地域資源の有効活用により、新たな人々を迎え入れることができました。しかし、それによる人口増加が限定的であり、今後の挑戦としてさらなる人口増加を目指す必要があります。

2. 椿原町の概要

2.1 地理的位置とアクセス

位置: 高知と愛媛の中間に位置しています。
アクセス: 高知市からは90分、須崎市からは40分、松山市からもアクセス可能です。

2.2 自然環境

四国カルスト: 周辺地域には四国カルストが広がり、自然豊かな地域となっています。
四万十川: 町は四万十川の源流域に位置しており、清流として知られています。

2.3 地域面積と人口

面積: 236.4平方キロメートル。
人口: 3,221人。
高齢化率: 47.78%と高齢者が多い。

2.4 地域の特性

森林面積: 地域の91%が森林となっており、豊かな自然環境が特徴です。
村の合併: 明治時代の大合併で6つの村が合併しました。現在でも各区がそれぞれの文化と特性を引き継いでいます。

2.5 現代の取り組み

環境モデル都市: 町は環境モデル都市としての取り組みを進め、風力発電の電力を公共施設の電力に活用している。風車の更新なども行っています。

3. 空き家活用促進事業

3.1 背景と目的

人口減少対策: 空き家を活用して人口減少に立ち向かう取り組みが約10年前から始まっています。

3.2 空き家のリストアップ

空き家リスト: 町内のすべての空き家のリストを作成しました。
リスト範囲: 初めに役場中心の10km範囲からリストアップを始めました。

3.3 空き家改修プロジェクト

改修範囲: ほぼすべての家が耐震改修が必要となっています。
内装: お風呂はユニットバス、トイレは水洗として、水回りを中心に改修が行われています。また、和室の畳や板張りの張り替えも行われています。
家賃設定: 月額2万円で、お試し滞在は月額1万円プラス光熱費となっています。

3.4 シェアハウスプロジェクト

シェアハウス: 空き家をシェアハウスとして利用するプロジェクトも進められています。

3.5 持ち家対策

新築補助: 町産材の新築に上限200万円の補助が行われています。
若者向け補助: 40歳以下の若者向けに新築に100万円、増改築に最大100万円の補助が行われています。

3.6 成果と現状

改修完了物件: 現在53棟の空き家が改修され、54戸が利用可能となっています。令和5年度にはさらに4棟の改修が予定されています。
マッチング: 空き家紹介住宅として11棟がマッチングされています。

3.7 今後の展望

空き家活用促進事業は町の人口増加と地域活性化を目指して進められています。今後も更なる改修と新たなプロジェクトの展開が期待されます。

4. 移住定住住宅整備の現状

4.1 改修完了した住宅数

53棟 54戸: 現在までに53棟の住宅が改修が完了し、合計54戸が利用可能となっています。その中には、2階建ての物件を2世帯で利用しているケースもあります。
お試し滞在: お試しで2件の物件が利用されています。

4.2 空き家紹介住宅の数

11棟 11戸: 空き家紹介住宅としてマッチングに成功した11棟11戸があります。
マッチング待機中: 現在65棟69戸がマッチング待機中となっています。

4.3 改修予定の住宅数

令和5年度計画: 令和5年度に4棟の改修が予定されています。

5. 支援策と補助

5.1 若者向けの補助金

新築補助: 40歳以下の若者を対象に最大100万円の補助を行っています。
増改築補助: 若者向けの増改築にも最大100万円（事業費の半額まで）の補助があります。

5.2 町産材新築補助

町産材を利用した新築に対して、最大200万円の補助金が提供されています。この取り組みは、地域の資源を活用しながら新たな住宅を創出することを目的としています。

5.3 空き家改修費の算定方法

空き家住宅利用料の設定を、町が負担し、利用者に12年スパンで負担してもらう形としています。この方法は、改修費用の負担を軽減しながら長期間の安定した住居提供を目指すものです。

6. 移住定住者の支援体制

6.1 移住定住コーディネーターの役割

移住定住コーディネーターは、移住者と町との間をスムーズに連絡を取り合う役割を果たします。彼らは移住者が新しい環境に順応できるようサポートし、必要なリソースや情報を提供します。

6.2 町と移住者とのコミュニケーション方法

コミュニケーションは、納税証明書の提出や面会を通じて行われます。町は移住者が地域社会にスムーズに統合できるように努めており、このプロセスを支援する多くのリソースを提供しています。

7. 空き家貸し出しの成功要因

7.1 町が介入するメリット

町が介入することで、家の所有者と入居者の間の多くの不安が解消されます。町が間に入ることでリフォームや耐震化などのコストが共有され、安心して貸し出しを行うことが可能になります。

7.2 所有者と入居者の不安解消方法

所有者と入居者の不安を解消する方法として、町が借り上げる形を取り、リフォームや耐震化を行った上で入居者に貸し出す方法があります。これにより、所有者はリフォーム費用を心配せずに済みますし、入居者も安全な住居を得ることができます。

8. 移住者の現状とニーズ

8.1 移住者の背景とニーズ

椿原町に移住してきた人々は多くが都市部から来る人々であり、新しい環境での生活や地域社会への貢献を求めています。

8.2 交流会の実施

地域の人々と移住者が交流する場として、定期的に交流会を開催しています。このようなイベントが地域社会の活性化にどのように貢献しているかを見ていきます。

8.3 移住者が椿原町を選んだ理由

移住者が椿原町を選ぶ大きな要因は、自然の豊かさや地域社会の温かみなどがあります。具体的な声を集め、なぜ椿原町が選ばれるのか、その理由を深く探求します。

9. 地域おこし協力隊制度の利用状況

9.1 人数と仕事内容

林業：5名　ブドウワイナリー：1名　キャンプ場管理者1名
という実情です。

10. 人口減少の課題と今後の見通し

共通意識として椿原町の意識している課題は以下を挙げられた

耕作放棄地の増加
住宅の空き家増加
商店の閉鎖とそれによる影響
住民の生活水準の変動

写真資料

雲の上の図書館

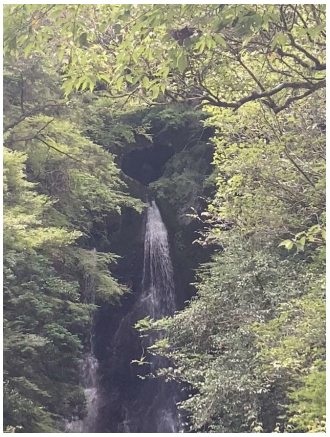
雲の上の図書館

図書館内のベビールーム

図書館内の子育て支援室

ゆすはら座

ゆすはら座

	
川遊び出来る場所	ハートの滝

移住促進策と椿原町の取り組み: 総括

椿原町の移住促進策は積み重ねてきた実績のあるポジティブな取り組みと言えます。
特に、移住者だけでなく、空き家を提供する家主にも利益をもたらす仕組みが整っており、自治体が財源を工夫して三方良しの体制を築き上げている点は驚かされました。
また、移住者の心理的なケアにも注力し、それぞれのニーズをしっかりと把握した上で住宅を改装している姿勢も評価できます。
移住してくる人は子育て世帯が多く、アンケートや聞き取り調査では、子育て施策が充実しているという理由で移住を決めた世帯が一番多いとの事でした。
子育て環境にも力を入れているということで、執行部はどのように園や保護者からのニーズを汲み取っているか尋ねたところ、園と情報交換しながら施策を考えていっているということでした。
町全体の雰囲気として、何より当事者の意見をしっかり集めてきちんとそこに対応している姿勢が素晴らしいと感じます。

その後四万十市でタクシーを利用した時に、椿原町出身のタクシー運転手の方と話す機会があったが、色々作られたり、取り組みがたくさんあっていいですね。と話しをしたところ、引っ越したり移住してきた人には良いんだけどね、ずっと住んでる者にはね…という話もされました。どうしても不平等感が出てしまうのは、移住の孤立にもつながる部分でもあるのではないかと感じてしまいました。
移住対策をしても結局出て行ってしまう人が多ければ意味が薄くなってしまうように思い至りました。今住んでいる人、これから住む人どちらにも良い取り組みが求められているのではないのでしょうか。

その他市内図書館を見学して
隈研吾氏の建築物: 建築家隈研吾氏デザインの建築物は観光資源として利用されているが、維持費用とその負担に関しては今後の課題として見据えるべきです。
図書館の利用状況: 現状では利用者が少ない印象を受けましたが、日や時間帯によって違う部分もあると思われるし図書館自体はとても魅力的であると感じます。
その内容を水俣市で行うと考えた時、水俣市では、地元出身の漫画家江口寿氏をテーマとした図書館の構築を考えると良いのではないかと感じました。これにより、地域の文化を尊重しつつ、新たな観光資源としての可能性も拓けるように思います。